

土石流被害調査で熱海へ 本村議員ら

3日午前、静岡県熱海市の伊豆山(いずさん)地区で、大雨による大規模な土石流が発生し、多くの住宅が流され大きな被害が出ました。日本共産党の本村伸子衆院議員、島津幸広前衆院議員、井上哲士、武田良介両参院議員は、鈴木節子県議らと現地に入り、住民の声を聞くなどしました。

本村、島津、井上の各氏は4日、鈴木県議と熱海市に入り、市内3カ所の避難所で住民の声を聞きました。

本村氏らは、住民に、災害救助法が適用されたことなど説明しました。

道路が寸断された伊豆山地区に住む小坂幸枝市議は、現地を歩いて被害状況や住民の声を聞き、電話で本村議員らと情報交換しました。武田議員も電話で参加しました。

島津氏は「家が流されてしまった人など生活再建できるまで地元のみなさんと連携して頑張りたい」。



熱海市伊豆山地区で調査する小池氏ら=9日



沼津市で住民から聞き取り=5日

沼津市で浸水被害などを調査 5日

本村、武田、島津の各氏は5日、床下・床上浸水被害の大きかった沼津市に調査に入りました。

鈴木県議、川口三男、岡田進一の両市議の案内で被害が大きかった原地区の被災者の声を聞きました。

黄瀬川大橋は折れ曲がり、5日時点で、床上浸水が60〜70棟ありました。

本村議員らは、罹(り)災証明の仕組みなどを住民に説明しました。

熱海市長と懇談 小池本部長

9日、小池晃書記局長(党国会議員団災害対策本部長)が斉藤栄熱海市長と懇談し、被害の様子や国への要望を聞きました。本村、島津、武田、井上の各氏、鈴木県議、小坂市議も同席しました。一行は同日、土石流の被害を受けた伊豆山地区へ入り、調査しました。

衆参災害対策特別委員会理事懇 本村・武田議員が発言

8日、衆参両院で災害対策特別

委員会の理事懇談会が開かれ、衆院は本村議員、参院は武田議員が発言しました。

本村議員は、ホテルの宿泊期限の延長や健康確保など被災者の要望にきめ細かく応えらるとともに、民間住宅の借り上げなど政府の全面支援、被災者生活再建支援制度の早急な適用を求めました。

武田議員は、沼津市の浸水被害で、住宅修理など当面の生活再建の経済的支援が必要だとして、災害救助法の適用や見舞金の支給の必要性を指摘。自治体への適切な

助言を求めました。

◆熱海市の被害状況

8日までに、9人の方がなくなり、安否不明者は22人、131棟が被害を受け、約570人が避難しています。ガスの停止や断水もあります。(9日付赤旗より)。

静岡県は、土石流が発生した起点部分で崩落した盛り土について、工法が不適切だったとし、排水設備などが不十分だった可能性があるとの考えを示しました。

被災者支援と土石流の原因解明を

党対策本部は6日、会合を開きました。帰宅困難者の宿泊先の確保など引き続き解決を図ること、また、被災者から土石流の発生原因の解明を求める声があがっていると紹介されました。

党が対策本部設置

党国会議員団は3日、小池晃書記局長を本部長に、「2021年静岡県熱海土石流災害対策本部」を設置、本村伸子衆院議員が事務局長、井上哲士、武田良介の両参院議員、島津幸広前衆院議員らが副本部長に就きました。

党議員が県・市に申し入れ

熱海市の小坂市議は4日、熱海市に、鈴木県議は3日、6日と県に対し申し入れを行いました。5日、沼津市への市議団の申し入れには、本村議員、島津前議員、武田議員らも同行し、床下・床上浸水修理にかかる経費の支援給付金など、日常の生活に戻るための要望も行いました。武田氏は「災害廃棄物の処理、消毒、生活を取り戻す要求が強い。見舞金を含め被災者に寄り添った支援が必要」と述べました。